

# 造血不全症候群と造血微小環境



筑波大学血液内科

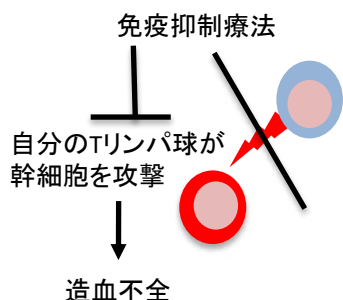
Department of Hematology, University of Tsukuba

再生不良性貧血、骨髓異形成症候群などの血液を作る力が落ちる”造血不全症候群”は原因不明であり治療にも困難を伴います。私たちは患者さんの検体を用いた研究、マウスを用いた造血をサポートする造血環境の研究を行っており、研究を通じて造血不全症候群の患者さんに対する治療の進歩を目指しています。

## 再生不良性貧血に対する 治療法の検討

一部の造血不全症候群で造血幹細胞に対する自己免疫により、血液を作る力が落ちてしまうことが知られています。治療として免疫抑制療法があり、その最適な方法を研究中です。

(Sakamoto T, Obara N, et al. Int J Hematol. 2013.)

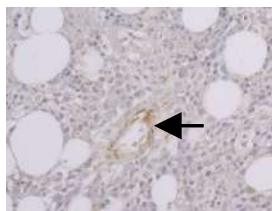


## 造血不全症候群における 造血環境の異常

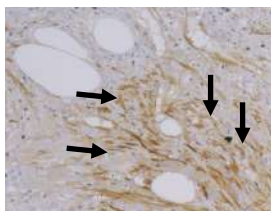
造血不全症候群において、造血幹細胞を支持する造血環境の異常が報告されています。私たちは一部の造血不全症候群で特定の造血環境に異常が起きていることを見いだしました。

(Cao-Sy L, Obara N, et al Int J Hematol. 2019.)

Control



Patient

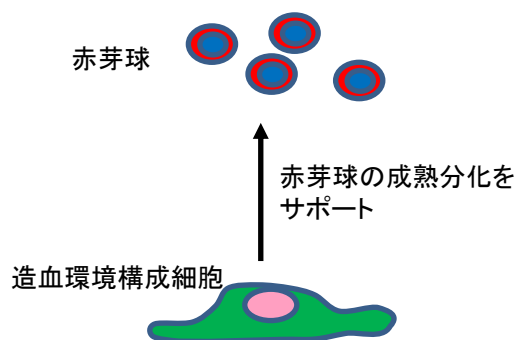


矢印: 特定の造血環境構成細胞

## 造血環境構成細胞の遺伝子異常が 造血に与える影響

マウスを用いて特定の造血環境構成細胞でNotchシグナルをノックアウトすると、骨髓における赤血球造血に障害が起こることを見いだしました。

(Sakamoto T, Obara N, et al. Stem Cells. 2019.)



造血不全症候群の患者さんの  
診療情報及び検体を用いた  
臨床試験を行っております。  
詳しくは臨床試験のページを  
ご覧ください。

坂本 sakamoto-tuk(あっと)umin.ac.jp

小原 n-obara(あっと)md.tsukuba.ac.jp